

Q 2 各教科等での言語活動の充実をどのように進めていけばよいか。

A 各教科等での言語活動の充実については、学習指導要領の総則に次のように示されている。

第4 指導計画の作成に当たって配慮すべき事項 2(1)

各教科等の指導に当たっては、児童(生徒)の思考力、判断力・表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童(生徒)の言語活動を充実すること。

上記からは、次のような授業構造が見えてくる。

各教科等の指導を通して児童生徒の思考力・判断力・表現力等を育成すること。

そのために基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る授業を行うこと。

同時に児童生徒の言語環境を整え、言語活動を充実すること。

このことを踏まえ、各教科等において言語活動の充実を図るためには、以下のような点に留意して進めていくことが大切である。

1 学校全体として言語活動の充実をどのように進めるか、共通理解を図る

言語活動の充実を図る指導を進めるには、学校全体で各教科等における言語活動についての指導をどのように進めていくか、話し合いの場を設けたり、全体計画を作成したりして、各教科・領域だけでなく、教科間の連携を図りながら、全教職員の共通理解の下に取り組むことが必要である。

その際、以下の4点に留意する。

学校の教育目標の達成のために言語活動の充実を図るという視点に立つこと。
児童生徒の実態から、学校としてどのような言語能力を育成するのかを明確にすること。

発達の段階に基づいた言語に関する能力や態度の育成を具体的にイメージし、いつまでにどのような能力・態度を身に付けさせるのか、最終的にどのような能力・態度を身に付けさせればよいのかについて、6年間または3年間の見通しをもつこと。

国語科での指導を中核にしながら、全教職員が共通で取り組むべきことと、各教科等で取り組むべきことを明確にすること。

特に教科担任制である中学校においては、言語能力の育成の中核を担う国語科でどんな指導を行い、どんな能力を育成するのか、国語科以外の各教科等では何を身に付けさせるために、どんな指導を行うのかを、お互いに理解し合うことが大切である。

2 各教科等の学習の現状を見直し、言語活動について整理する

中央教育審議会答申（平成20年1月）では、思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動との関係について、以下のように述べている。

現在の各教科の内容、PISA調査の読解力や数学的リテラシー、科学的リテラシーの評価の枠組みなどを参考にしつつ、言語に関する専門家などの知見も得て検討した結果、知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力等をはぐくむためには、例えば、以下のような学習活動が重要であると考えた。このような活動を各教科において行うことが、思考力・判断力・表現力等の育成にとって不可欠である。

体験から感じ取ったことを表現する

(例)・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する

事実を正確に理解し伝達する

(例)・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する
概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

(例)・需要、供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動に生かす

・衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する
情報を分析・評価し、論述する

(例)・学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど、考えるための技法を活用し、課題を整理する

・文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて、A4・1枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する

・自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりする

・自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する

課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

(例)・理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする

・芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する

互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

(例)・予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う

・将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる

ここに示されている活動は、これまでも各教科等で行われてきたことである。だから

とって、「これまでやっていたことと同じでよい。」ということではない。各教科等においては、これまでの授業で行われてきた学習活動を見直し、思考力・判断力・表現力等の育成という視点で整理することが求められる。具体的には、以下のような手順を進めてみるとよい。

今までのどの学習活動が言語活動に該当するか。

洗い出した言語活動は、次のどの部分と関連が深いか。

- ・ 基本的な用語や概念を理解したり、テキストから情報を取り出したりする
- ・ 情報や既習の知識に基づいて推論したり考えたりする
- ・ 自分の考えたことや気付いたことを表現する

教科の目標を達成し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等を育成するには、今までの活動をどう改善すればよいか。

新たに取り入れるべき言語活動は何か。それによってどんな能力を身に付けさせるのか。

これらの言語活動を、授業の中のどの場面で、どのように行うのか。

国語科以外の教科・領域の場合、言語活動の位置付けは、各教科等の目標を効果的に達成するための「手段としての言語活動」である。各教科等で言語活動の充実を図る指導を展開するに当たっては、言語活動を通じて、それぞれの教科・領域としてどんな能力を育成するのかという視点を忘れてはならない。特に大切なのは、それぞれの教科等に特有の「用語」や「概念」を定着させ、それらを活用して課題を解決する力を身に付けさせるということである。その上で、学習指導要領に示されている言語活動を指導計画に位置付けていくことが大切である。

例1 再整理した思考力・判断力・表現力を踏まえた指導方法の工夫

「[全国学力・学習状況調査で特徴ある結果を示した学校における取組事例集](#)」(国研)参照

中学校・数学科の例

思考力・判断力・表現力を再整理

与えられた条件を正確に読み取る能力
与えられた条件を図やイラスト・グラフなどに表す能力
自らの思考過程を文章に表す能力
自らの考えや意見を、根拠に基づいた分かりやすい意見として伝える能力
他者の意見を聞いて、自分の思考を検証し高める能力

これを踏まえ、指導方法を工夫改善

教員からの発問は、簡潔で明瞭な指示や説明を心掛ける。
各授業に生徒自身が考える場面(山場)を設定し、しっかり考える時間を保障する。
生徒の考えを発表させ、その説明を聞かせる場面を意識的につくる。
生徒が自信をもって発表できるよう、ノートに書かせる等のステップを踏ませる。
その場面に合った声量での発言を意識させる。
筋道を立てて解答ができるように過程を重視する。

具体的な指導方法の例

- 式の計算や方程式等の計算問題
- ・自分が考えた計算の仕方を、筋道立てて文章に表わしたり説明したりさせる。
 - ・友達の発表を聞いて、自分の考えと比較させる。
- 方程式を用いる文章問題や関数などの数量関係
- ・自分の考えをノートに書いて発表させる。
 - ・文章問題を作成し、相互に解き合い、説明させる。
- 図形などの論証
- ・問題文に書かれている仮定や条件、結論などを明らかにさせる。
 - ・筋道立てて考えたことを、記号などを利用して簡潔に論理的に書かせる。

例2 言語活動の指導計画への位置付け～益子町立田野小学校の取組～

5年生社会科の例

言語活動例

- 体験から感じ取ったことを表現する【言 - 】
- 事実を正確に理解し伝達する 【言 - 】
- 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする【言 - 】
- 情報を分析・評価し、論述する 【言 - 】
- 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する【言 - 】
- 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる【言 - 】

言語活動の年間指導計画への位置付け

	ねらい	主な学習活動	指導上の留意点	言語活動
6	・養殖漁業や栽培漁業を行う人々の工夫から、これらの漁業を行っている理由を考えることができる。	・養殖・栽培漁業の工夫を資料から読み取る。 ・現在の方法を行っている理由を考え説明する。	・日本の漁生産の減少の理由と関連づけて、問題点を解決するために養殖・栽培漁業が行われているという観点で追究させる。	・生産者の話などの資料から人々の工夫や努力に気付き、生産者の意図を解釈し説明する。 【言 - 】
7	・養殖魚を新鮮なまま消費地に届けるための具体的な方法を調べ、その工夫や努力に気付くことができる。	・鹿児島島のぶりの消費地や消費への道のりを調べる。 ・鮮度を保つ工夫を調べ、要約して説明する。	・新鮮さを保ち、遠くまで運ぶための工夫に注目させる。 ・気付いたことを要約し、グループに発表させ、効率的に情報を共有させる。	・写真や図などの情報をもとに、分かったことを要約して説明する。 【言 - 】

言語活動の授業への位置付け

鹿児島湾のぶりは、水あげされてからどのような工夫・努力をして消費者の元へ運ばれるのだろうか

- 1 本時の学習課題を知る。
- 2 鹿児島湾のぶりの主な市場や生産地から益子町までの道のりを調べる。
- 3 鮮度を保つための工夫を調べる。

予想される児童の反応

鮮度を保つための工夫

- ・高速道路を使う
- ・氷づめ
- ・発泡スチロールの箱
- ・保冷トラック
- ・活きじめ
- ・安全運転

・鮮魚が自分たちの住む町に届くまでという視点で輸送経路や手段、輸送の工夫を考える活動を通して、教科書や資料集、地図から必要な資料を選択活用する力を高める。

・調べ学習の後、気付いた点をグループで話し合い、自分の考えと友達の考えを比較・検討する力を高める。

・他の班に特に伝えたいことを選択させることで、調べた内容を評価・選択する力を高める。

・小黒板を利用し、調べた内容を要約して伝える力を高める。

- 4 学習のまとめをする。
- 5 本時の振り返りをする。

ポイント

押さえない用語が明らかになっている

ポイント

「要約して伝える」という言語能力を明確にし、発表の場面に位置付けている。

3 国語科の役割を確認し、各教科等との連携を図る

国語科は、児童生徒の言語能力を育成することが教科の目標であり、国語科以外の教科・領域での言語活動の基礎を形成する役割を担っている。言語活動の充実を図るに当たっては、国語科と国語科以外の教科・領域との連携をどのように進めていくか、学校として具体的に検討し、計画的に進めることが大切である。

国語科と各教科等との連携については、例えば次のようなことが考えられる。

国語科で学習した言語活動を各教科等で生かす。

- ・記録文の書き方を国語科で学習し、理科で観察記録を書く。
- ・レポートの書き方を国語科で学習し、総合的な学習の時間にレポートを書く。
- ・話合いの仕方を国語科で学び、学級活動等で話し合う。
各教科等での学習内容を題材として、国語科で言語活動を展開する。
- ・社会科で行った調べ学習を、国語科で図表や写真を使って文章にまとめる。
国語科での指導の内容を、全教職員で共有する。
- ・話合い（パネルディスカッション・ディベート等を含む）の進め方
- ・意見文や感想文、記録文などの形式
- ・発言や発表の仕方
- ・話の聞き方やメモの取り方 など

こうした連携を進めるためには、国語科での指導の内容や時期について、全教職員がその情報を共有する必要がある。とりわけ中学校においては、国語科から積極的に情報を発信し、各教科等に働きかけることが求められる。

4 学校全体で言語環境の整備を進める

言語環境の整備に関しては、学習指導要領に次のような記述がある。

小（中）学校学習指導要領解説 総則編

「……学校生活全体における言語環境の整備としては、例えば
教師は正しい言語で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書くこと
校内の掲示板やポスター、児童（生徒）に配布する印刷物において用語や文字を適正に使用すること
校内放送において、適切な言葉を使って簡潔に分かりやすく話すこと
適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用すること
教師と児童（生徒）、児童（生徒）相互の話し言葉が適切に行われるような状況をつくること
児童（生徒）が集団の中で安心して話ができるような教師と児童（生徒）、児童（生徒）相互の好ましい人間関係を築くこと
などに留意する必要がある。」

言語は、知的活動だけでなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある。言語活動の充実が学習指導要領に盛り込まれた背景として「自分や他者の感情や思いを表現したり、受け止めたりする語彙や表現力が乏しいことが、他者とのコミュニケーションがとれなかったり、他者との関係において容易にいわゆるキレてしまう一因になっており、これらについての指導の充実が必要である」（中央教育審議会答申）との問題意識があることに留意すべきである。

その上で、上記の「正しい言葉」「適切な話し言葉や文字」「話し言葉が適切に行われ

るような状況」とは具体的にどのようなものかについて、共通認識をもち、指導に当たることが必要である。

また、言語環境の整備においては、学校図書館の利活用を図ることも重要である。学校図書館には、児童生徒の感性や情緒を育む読書センターとしての機能と、児童生徒の主体的な学びを支える学習・情報センターとしての機能がある。学校図書館の利活用については、読書活動とともに、各教科等での基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習を計画的に推進していくことが大切である。

〔参考資料〕

[言語活動の充実に関する指導事例集（小学校版）](#) H23.1 文科省

特に、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、それぞれの教科等において言語活動を充実する際の基本的な考え方や、言語の役割を踏まえた指導について解説するとともに、小学校における優れた指導事例（100）を収録。

「中央教育審議会答申」

H20.1 文科省

[言語力の育成方策について（報告書案）](#)

H19.8 文科省(言語力育成協力者会議)

[これからの時代に求められる国語力について](#)

H16.2 文科省(文化審議会答申)

[全国学力・学習状況調査で特徴ある結果を示した学校における取組事例集](#)

H21.8、H22 国研

小（中）学校学習指導要領

H20.8,9 文科省